



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2015年度 No.1)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆2015年度運営委員長からのご挨拶
- ◆FIT2015 (第14回情報科学フォーラム) 開催のご案内
- ◆HCGシンポジウム2015への投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HIP研究会)
- ◆研究会活動紹介 (CEA研究会)
- ◆研究会活性事例の紹介【研究会, こんなことやってます!】

2015年度運営委員長からのご挨拶
 —生活の根底としてのコミュニケーション—

HCG委員長
 井原雅行 (NTT)

今年度、ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) の運営委員長を担当することになりました。よろしくお願ひ致します。

いきなりですが、皆さん、東日本大震災のこと、忘れかけていませんか？あれから、もう四年以上になります。当時、「絆」という言葉が盛んに使われました。「人はコミュニケーションで成り立っているんだなあ」と思うと同時に、自身の研究テーマもこれをきっかけに災害時に役立つ内容に変えようと思いました。四年もたつて被災地の人々の考え方も変わったと聞きます。生活すること自体が大変であり、助け合いより自己主張の方が強くなる人もいらっしゃるかと。私は職場の仲間に「仕事、楽しい？楽しくないなら、仕事の中身、仕事のやり方、あるいは、仕事をする相手が間違っているかもよ」と言うことがあります。会社という組織の中で働いていると（大学でも同じでしょうが…）、組織の制約とか、業績とか、自分の評価等を重視するあまり、コミュニケーションを優先できなくなっている人を見かけます。幸いにも、私は新入社員のときに先輩からきっちり叩き込まれたこともあり、周りの人とのコミュニケーションは大切にしているつもりです。また、仕事もそういう価値観の人と一緒にしたいと思います。やはり生活の根底は人とのコミュニケーションなのではないでしょうか。

さて、そろそろHCGの話をしてしまおう。HCGは電子情報通信学会に属していますが、この学会自体のあり方が見直されようとしています。今から数年かけて新しい運用ルールが制定されることでしょう。HCGとしても、より活動しやすい環境を獲得するために、必要なら学会に働きかけていくことも重要です。運営委員長に就任するにあたり、取り組むべき項目として以下の三点をあげたいと思います。

- (1) コミュニティの活性化と活動アピール
- (2) 活動しやすい環境の提供
- (3) 新施策実施の場としてのHCGを強化

上記(1)については、HCGシンポジウムの更なる活性化、HCGウェブサイトコンテンツの見直し、研究成果の社会還元、HCG内議論の情報発信があげられます。(2)については、多様な研究会実施形態の許容、功労賞制度の新設が、(3)については、新研究分野の開拓、研究分野型でない研究専門委員会の設置推奨があげられます。HCGは1000人弱の規模の組織ですから、上記の全てを実施することは逆に関係者の皆さんの負担を増やすことになるでしょう。取り組みの優先度をよく考え、ニーズのあるものから実施方法を具体化していきたいと思っています。そのためにも、HCG所属の全研究専門委員会にヒアリングを開始しました。ヒアリング結果をうまく施策実施に活かせたらと思っています。

学会の役割は、皆さんが活動しやすいようサポートすることです。委員長のエゴで皆さんの負担を増やして迷惑をかけないよう、十分配慮しながらHCGを盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

FIT2015 (第14回情報科学技術フォーラム) 開催のご案内

HCG企画幹事
 新井田統 (KDDI研究所)

電子情報通信学会 (ヒューマンコミュニケーショングループ、情報・システムソサイエティ (ISS)) および情報処理学会 (IPSJ) が共催する、FIT2015 (第14回情報科学技術フォーラム) の開催をお知らせいたします。今年度は、愛媛大学において開催されます。

- ・会場：愛媛大学城北キャンパス
- ・会期：2015年9月15日(火)～17日(木)

最新情報につきましては下記をご覧ください。
<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/>

情報処理学会 (IPSJ) と電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) 及びヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) との合同で開催致します本フォーラムは、IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2015船井業績賞は、William James Dally教授 (スタンフォード大、NVIDIA社) の受賞が決定しており、受賞記念講演が9月16日(水)に予定されています。

なお、一般講演の応募論文からは、船井ベストペーパー賞とFIT論文賞が選定されると共に、受講者による現地投票も反映されるヤングリサーチャー賞もありますので、参加者は是非積極的な聴講と投票をお願いします。その他、以下のような情報科学技術に関する様々なテーマの学会・研究会企画によるイベントが開催されますので、是非ご参加下さい。

- 【9月15日(火)】
- ・スマートデバイスやクラウドを用いた教育・学習インフラとその活用技術
 - ・シンギュラリティ問題が社会に与える影響
 - ・地域を活かす、地域で生きるICT
 - ・ITによって教育はどのように変わるか？
 - ・サイバーワールドの10年 - これまでと今後の展望 -
 - ・地方における実践的人材育成
 - ・学術研究におけるビッグデータの安全な活用はどこまで可能か？：日本の研究力の飛躍的向上に向けて

- 【9月16日(水)】
- ・新世代XXX乗っ取り作戦
 - ・人工知能のため標準問題としてのゲーム研究
 - ・今日からあなたもビッグデータ活用者 ～オープンデータ、クラウドサービスの波に乗れ～
 - ・災害コミュニケーションとその課題
 - ・オノマトペ活用技術の最前線

- 【9月17日(木)】
- ・医療用ソフトウェアの最新動向：高信頼設計、法規制、および、ビジネス展開
 - ・第6回 相模秀夫杯 デザインコンテスト 予選/本選
 - ・ビッグデータ解析のための機械学習技術

HCGシンポジウム2015への投稿のご案内

HCG企画幹事
 川原靖弘 (放送大)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) が主催するHCGシンポジウム2015への投稿のご案内です。

- ・会場：富山国際会議場 (富山県富山市)
- ・会期：2015年12月16日(水)～18日(金)

- ・発表申込締切：2015年8月31日(月) 24:00 JST
- ・発表原稿締切：2015年10月9日(金) 24:00 JST

・副題：日常生活空間を創る情報技術とコミュニケーション

発表申込や最新情報につきましては、下記をご覧ください。
<http://2015.hcg-symposium.org/>

HCGシンポジウムは、HCGに属する各研究会はもとより、その他の研究分野との横断的かつ濃密な交流を促進しています。全ての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠が設けられ、幅広い分野の参加研究者とのディスカッションを行うことができます。この機会を是非ご利用ください。

- ・口頭発表者によるインタラクティブ発表は義務ではありませんが、コアタイムにはできるだけご参加ください。
- ・インタラクティブ発表ではポスタ（印刷したスライドも可）を掲示して頂きます。ノートPCを用いたデモも可能です。
- ・インタラクティブ発表のみの参加者も募集します。萌芽的な研究やプロジェクト紹介などにご活用ください。

特に学生の皆様にとっては、修論・卒論等の執筆開始時期に合わせて、外部研究者からの多様な意見が得られ、より多面的な観点でバランスのとれた論文執筆に役立てられます。ぜひ積極的にご参加ください。

また、特定のトピックに関する研究発表を集めた「オーガナイズドセッション(0S)」を企画しています。詳細はWebページをご覧ください。

本シンポジウムで優れた研究発表を下記の通り表彰する予定です

- ・最優秀インタラクティブ発表賞
- ・優秀インタラクティブ発表賞（一般のみ）
- ・学生優秀インタラクティブ発表賞（学生のみ）
- ・オーガナイズドセッション賞

昨年は、研究発表117件（口頭102件、インタラクティブのみ15件）、参加者226名と過去最大規模となりました。今年も皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

シンポジウムに続き、電子情報通信学会論文誌「基礎・境界：A」においてヒューマンコミュニケーション特集号が予定されています。ぜひご投稿ください。本シンポジウムでの優秀な論文は本特集号へ推薦いたします。

情報保障のご案内：
 視覚や聴覚等に障がいのある方に対し情報保障を行います。詳細はWebページをご覧ください。

研究会活動紹介（HIP研究会）

HIP研究専門委員長
 安藤英由樹（阪大）

ヒューマン情報処理研究会（HIP）はHCGの誕生とともに発足した研究会で、人の感覚？知覚？運動ループといった内部的情報処理、人と人のインタラクション、人と環境のインタラクションでなされる情報処理にかかわる問題等々幅広く取り上げております。特に、情報通信にかかわる研究者だけでなく、生理学、心理学、神経科学認知科学の分野、近年では医療分野の実践的な試みに関するものなど多彩な分野の研究者が毎回、熱心に研究発表と討論を展開しています。具体的なテーマとしては、感覚・知覚情報処理として視覚・聴覚・触覚・体性感覚・嗅覚・味覚などの感覚についての情報処理やこれらのコンビネーションとして異なる感覚モダリティの相互作用に関する研究、感性と認知としてリアリティ、場の空気、気配、心地よさといった何の感覚刺激が曖昧だが捉えている情報の取得に関するメカニズムに関する研究。またこれらを評価・観測する手段として脳機能解析、生体信号処理、身体運動解析などの研究、さらにはこれらの基礎研究を活用したヒューマン・インタフェースのデザインなど人を中心とした非常に幅広い議論が交わられています。活動としては、FITや総大会、HCGシンポジウムに加え、全国各地で5回の研究会が催されています。これらの研究会はそれぞれ共催あるいは連催の研究会によってそれぞれ特色が見られます。例年5月の研究会（ここ数年は沖繩）ではHGS（共催）、HI学会SIGGE（連催）と

して、ヒューマン情報処理一般に加え、コミュニケーション支援、ヒューマンコミュニケーション一般の発表が集まりました。7月頃の研究会はVR学会VR心理学研究委員会（共催）、日本認知科学会知覚と行動モデリング研究分科会（共催）として、バーチャル空間・特殊空間の知覚・認知、多感覚知覚、9月頃の研究会では日本光学会視覚研究グループ（共催）として眼球運動と知覚、眼球運動の制御・計測、調節・瞳孔の機能、11月頃の研究会では東北大電通研音響工学研究会（共催）、日本認知心理学会感性学研究部会（共催）、日本心理学会「注意と認知」研究会（共催）、ITE学会HI研究会（連催）、CE研究会（連催）として、マルチモーダル、感性情報処理、視知覚とその応用、2月頃の研究会では日本バーチャルリアリティ学会力触覚の提示と計算研究会（共催）、SICE SI部門 触覚部会（共催）、SICE SI部門VR工学部会（共催）、気学会触覚デバイスの高度化協同研究会（連催）として力触覚、手とそれぞれユニークな連携が取られており、専門的かつ俯瞰的な研究会で年間150件程度の発表が行われています。本研究会のホームページ(www.ieice.org/~hip/)をご覧ください。皆様もどうか積極的にご参加ください。

もちろん「ヒューマン情報処理一般」の研究発表も毎回、受け付けております。現在の我々の生活を鑑みると電子情報通信技術は切り離せないものになっていますが、今以上に人間の活動を活性化するためにはより深く人間を知り、人を中心とした研究が必要になっていくと思われまます。人と情報の関係を発展させ電子情報通信学会に貢献してきたいと考えています。

研究会活動紹介（CEA研究会）

CEA研究専門委員会
 専門委員長 井手一郎（名大）
 前専門委員長 山肩洋子（京大）

食メディア研究会（略称「食メ」または「QEA」）は、「献立決め」「料理」「食べる」といった、人間の食に関するあらゆる活動を対象として、主に情報分野の研究について発表や情報交換の場を提供することを目的とした第二種研究会です。2014年度は、1) 6月12-13日バーチャルリアリティ「香り・味と生体情報研究会」に協賛、2) 8月23～24日に若手研究者と学生を中心とした合宿形式討論会、3) 9月10-11日データ工学研究会に協賛、4) 9月14日国際ワークショップWorkshop on Smart Technology for Cooking and Eating Activities (CEA2014) をACM Ubicomp2015内に企画(オフィシャルには当研専は協賛)、5) 12月17～19日HCGシンポジウムに参加、6) 3月3～4日MVE研究会に協賛、と、多方面で活動しました。

8月に行った合宿形式討論会では、京都市東山区にある京町家を2日間、一棟借り切って、料理の先生をお招きし、研究発表と、調理収録実験およびディスカッションを行いました。初日は参加者の皆さんが、それぞれどのような研究を行っているかを紹介。その後、2チームにわかれ、どんな実験をしたいかをディスカッション。16時ごろに京町家へ移動して、カメラ等の実験機器を設置したあと、京町家内にて懇親会（参加者のうち数名はそのまま京町家に宿泊）。翌日は朝から京町家に集合。料理に不慣れな学生が先生に料理を教わりながら調理し、他の参加者がその様子をカメラ等で収録して分析。最後に2チームそれぞれが実験のまとめを発表して終了しました。

9月のデータ工学研究会では、食メディアに関する一般講演12件と、食に関する3名のスペシャリストによる招待講演が行われました。データ工学研究会では、「クックパッド」や「楽天レシピ」等の『料理レシピ』や、「食べログ」や「ぐるなび」等の『レストラン検索』の研究が盛んに行われていたことから、3年前から食メディア研究会が協賛させていただいています。2015年も9月24・25日に神奈川工科大学において開催される予定です。また、続けて9月26日には久々の単独研究会を開催します。

食メディアの国際展開を目指して、国際ワークショップCEA (Workshop on Multimedia for Cooking and Eating Activities) を年1回、国際学会のサテライトワークショップとして開催しています。2015年は7月3日にICME2015@トリノにおいて開催しました。12件の論文をご投稿いただき、Long presentation 3件(25%)、Short presentation 4件(33%)にご発表いただきましたが、投稿者、参加者ともに日本人が大半であったことから、国際化にむけた更なる努力が必要です。世界的な生活習慣病の蔓延により、多くの国々が食の重要性に気付き始めています。日本古来の健康的で彩り豊かな食文化を武器に、情報処理分野で日本が世界をリードしていけるよう活動していきたいと思っております。

【研究会、こんなことやってます！】

今回のニューズレターからHCG内の研究会で行われているユニークな取り組みを一つずつ取り上げて簡単に紹介していきます。第一回の今回は以下です。

マルチメディア・仮想環境基礎研究会（MVE）では、希望する投稿者に対し、当日の発表の場ではなくメールでメンターからのコメントやアドバイスを返す「メンター制度」を実施しています。査読ではなく、着想や研究の進め方等、優れていると思われる点をより伸ばすためのアドバイスを行っていますので、皆さん積極的に活用してみてください。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2015 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659